

水資源

ENVIRONMENT



▶方針・考え方

物理的な水不足問題は、当社事業に対して影響を及ぼすと考えています。具体的には、工業用水や上水道などの供給制限は、水を利用する火力発電所や原子力発電所の運営に影響を与える可能性があります。

火力発電所および原子力発電所では大量の水を利用しています。このうち、冷却水は海水を利用しておらず、冷却水以外の発電用水についても、その半分程度を海水淡化装置によって賄っています。

なお、2020年度に当社が運営する発電所について、渴水に係る水リスク評価を実施したところ、重大なリスクがないことを確認しました。

このように、国内の発電所において渴水等にかかる事業上のリスクは大きくないものの、引き続き、水資源の適切な利用とリスク管理に取り組んでいきます。

また、グループ共通の取組み(関西電力グループエコ・アクション)として、オフィスの水使用量の極力低減に取り組んでいます。

▶目 標

生活用水使用量の削減

極力低減

▶取組み

●水リスク評価の取組み

2020年度に当社が運営する発電所について渴水に係る水リスク評価を実施したところ、現時点で、水不足が発生するという重大なリスクはないことを確認しています。なお、世界資源研究所*(WRI)が提供するツールおよび外部専門家の情報を参考にしています。
※地球の環境と開発の問題に関する政策研究と技術的支援を行う独立した機関

●パフォーマンスデータ

・水使用量^{※1}

	単位	2021年度	2022年度	2023年度
淡水使用量 ^{※2}	100万m ³	4.23	4.54	3.84
		(5.21)	(5.40)	(4.35)
		0.44	0.44	0.35
		(0.44)	(0.44)	(0.35)
		0.00	0.00	0.00
		(0.56)	(0.46)	(0.50)
		3.79	4.10	3.49
		(4.21)	(4.50)	(3.50)
		2.51	2.61	2.48
		(2.66)	(2.72)	(2.49)
海水(淡水化) ^{※3}		1.28	1.49	1.01
		(1.55)	(1.78)	(1.01)
		2.79	2.54	2.75
		(2.79)	(2.54)	(2.75)

※1 括弧書きはグループ会社を含めた数値(一部会社を除く)

※2 海水(淡水化)使用量は除く

※3 淡水化して利用した海水

※4 補足率はp.26のとおり

